君の射精はエントロピーを凌駕する2

きゅうべえに言われた通りまた
オナ禁して待っていると…

三日目の夜、インターホンが鳴った。

ドアを開けると、
見滝原の制服を着た
金髪の女の子が立っていた。

あの…こんばんは。
きゅうべぇに言われて来ました…
ここのお宅で合ってますか？
優しく微笑む彼女、
あまりの可愛さに目を奪われる。
うん、合ってるよ…！
フッー♥
フッー♥

私、巴マミっていいます、
よろしくお願いしますね。
彼女の豊満な胸と大人びた
雰囲気に、胸がドキドキする。
フッー♥
フッー♥
マミが「じゃあ、始めましょうか」
と言うと赤い顔で、そっと
抱きつき、唇を重ねてくる。

『ちゅっ♥』と軽いキスから始まり、
すぐに『れろっ♥ちゅぷっ♥』と
濃厚なディープキスに変わる。

マミの唇は驚くほど柔らかく、
俺の唇を包み込む。
彼女の舌がそっと滑り込み、
俺の舌と絡み合う。

んっ…はあっ♥
じゅる♥
ちゅっ♥
レロ♥
レロ♥
マミの吐息が漏れ、甘い唾液が
混ざり合うたびに脳が
痺れるような快感が走る。

ふふっ、気持ちいいでしょ？♥
マミは唇をさらに強く押し付ける。
じゅる♥
ちゅっ♥
れろ
彼女の舌が口内をゆっくり探り、
歯茎をなぞり、舌の裏を舐める。
れろちゅっ♥じゅぷっ♥

マミの手が俺の首に回り、
密着度が増す。
胸の柔らかい膨らみが当たる感触に
三日オナ禁した俺のおちんちんは
先端から透明な液が滲み
ガチガチに勃起してしまう。
じゅる♥
ちゅっ♥
ぺロ♥
ぺロ♥

マミは服を全て脱ぎ
俺のズボンとパンツを下ろす。
ガチガチに勃起したおちんちんの
先端が濡れている。

もっと気持ちよくしてあげる♥

たぷっ

たぷっ

マミが囁き、跪いて俺の前に座る、
彼女が両手で自分の胸を寄せ、
おちんちんを谷間に挟み込むと
ムニュッと、温かくて弾力のある肉が
おちんちんを優しく刺激する。

両手で胸を上下に動かし始めると、
柔らかい肉が波打つように揺れ、
おちんちんをヌルヌルと擦る。
唾でぬるぬると肌が擦れる
淫靡な音が響き、先端から
根元までを包み込む。
たぽっ
たぷっ
すごい…気持ち良すぎる…♡
マミが胸を寄せて強く締め付けると、
柔肉がムニュムニュと変形し、
おちんちんを締め上げられ
腰がガクガク震える。

こういうのも気持ち良いわよね♥
胸を交互に動かし、
右と左のおっぱいが別々に
擦り上げる、
亀頭が谷間で擦れるたびに、
柔らかい肉がおちんちんをしごき、
鋭い快感が走る
たぽっ
たぷっ
マミちゃん、気持ちいい…！
と喘いでも、マミは容赦なく
パイズリを続ける。

んっ♥そろそろかしら？♥
胸を強く寄せて一気に上下に動かす。
柔肉が波打つように揺れ、
おちんちん全体を包み込む圧力が
強まる。
ズチュズチュ♥ヌチャヌチャ♥と
音が大きくなる、
マミちゃん、もう……！
たぽっ
たぷっ
いいわよ、私の胸で全部出して♥
と囁き、胸を高速で動かすと…

びゅるるっ！びゅびゅびゅびゅ！
白濁がマミの胸に勢いよく飛び散る、
谷間から精液が溢れ肌を濡らす。
びゅるる、
たぽっ
たぷっ
んあっ♥すごい量…濃いわ♥
射精中も胸を揺らし快感を
与え続ける。
俺は膝をガクガクさせながら
射精する…

ほら、遠慮しないで♥
マミが手を導き、
俺の手を胸に押し当てる。
もみっ
もにゅ
胸に指先が触れた瞬間、
ムニュッと沈み込む。

両手でそっと揉み始めると
おっぱいが指の間から溢れ出し、
ムニュムニュと形を変える感触は、
まるで極上のマシュマロを
握っているようだ。
もみっ
もにゅ
んっ♥そんな…気持ちいいわ♥
小さく喘ぎ、
彼女の吐息が俺の興奮を煽る。

マミが体をくねらせ、
その反応におちんちんが
完全に勃起。先端が疼いて
透明な液が滲む。
もにゅ
もみっ
また勃起したわね♥
次は私の中で
気持ち良くしてあげる♥

俺は興奮しながら彼女に覆い被さる。
亀頭を秘部に当てると、熱くて
ヌルっとした感触が先端を包み、
「うっ……！」と腰が震える。
ずちゅ
ずちゅ
ブッ♥
ブッ♥

ゆっくり挿入すると、
「はあぁっ♥」とマミが甘い声を
上げ、膣内の媚肉がグニュッと
おちんちんを締め付ける。
ヒダが亀頭をゴリゴリと擦る。
根元まで埋まると、
膣の奥がキュッと締まり、
全身に電気が走るような快感が広がる
ずちゅ♥
ずちゅ♥
ずッ♥
ずッ♥

腰を動かし始め、ゆっくり引き抜いてから
「どちゅん♥」と深く突く。
彼女の膣内は熱く、柔らかい肉壁が
波打つように締め付け、カリ首を
コリコリと刺激する。
「パチュッ♥パチュッ♥」と肉が
ぶつかる音が響き、
マミの胸が上下に揺れる、
ずちゅ♥
ぷるん♥
ぷるん♥

どちゅっ♥どちゅん♥と突くたび、
マミが「んあっ♥そこ…！すごいっ♥」と
体を反らし、彼女の膣がキュウッと締まる。
愛液が太ももを濡らし、ヌチャヌチャと
淫靡な音が部屋を満たす。亀頭が
膣の天井を擦り、粒のようなヒダが
カリ首を引っ掻くたびに、
背筋がゾクゾクと震える。
マミが「はぁんっ♥もっと…深くして…！」
と脚を俺の腰に絡め、引き寄せる。
ずちゅ♥
ブッ♥
ブッ♥

俺はバックからもっと深く挿入する、
腰をさらに加速させ、
パチュパチュ♥グチュグチュ♥
あっ♥
と音が激しくなり、彼女の愛液が
飛び散ってシーツを濡らす。
パチュ♥
マミが「んんっ♥気持ちいい…！もっと♥」
と喘ぎ、「んぁぁっ♥」と体をくねらせ、
膣がギュッと締まり、快感が倍増する、
パンッ♥

マミが「はぁっ♥お兄さん…！一緒に…！イって♥」と叫び、俺は腰をグラインドさせて応える。彼女の媚肉が波のように蠢き、

ヒダが亀頭をゴリゴリと擦る快感に俺の全身が震える。

マミが「いいわよ…！中に全部出して！全部受け止めるから♥」と叫び、彼女の膣がキュウッと媚肉が吸い付くように蠢くと…

びゅうっ！びゅるるるっ！と白濁がマミの奥に勢いよく流れ込む。
熱い精液が膣内を満たし、
「んぁぁぁっ♥熱い…！すごいっ…！♥」と
マミが体を仰け反らせ、ビクビクと痙攣する
白濁が溢れ、「どくっ！どくっ！」と
おちんちんが脈打ち、
快感が何度も繰り返す。
あっ♥
あっ♥
パチュ♥
パンッ♥
びゅるるっ♥

「うぅぅ…！」と呟き、俺は彼女に倒れ込む。
マミが「はぁ…♥ お兄さん…ありがとう♥」
と微笑み、汗と愛液で濡れた体を寄せる。
彼女の胸が上下し、火照った肌が汗で光る。
いっぱい出てる…♥
うふふ…、ねえ…今日はずっと、
こうしていましょう…？

とても気持ちよかったわ…♡
また来ても良いかしら…？
俺はもちろんと言い、
マミちゃんは帰って行った。
フッー♥
フッー♥

お疲れ様、とても満足している顔だね
またきゅうべえが現れた
じゃあまた三日日に女の子を連れてくるからよろしく頼むよ。
俺はまたその日が来るのを楽しみにするのだった。

三日後

また三日が過ぎ、インターホンが鳴る
ドアを開けると、見滝原の制服
ではなく、
動きやすそうなジャケットと
ショートパンツ姿で赤い髪を
ポニーテールにした
女の子が立っていた。
ハァ♡
ハァ♡

よお、きゅうべえに言われて来たぜ。
ここであってるよな？
そうだよと伝えると
彼女は「佐倉杏子だ。ま、よろしくな」
と笑う。彼女のワイルドな
雰囲気に・・・
う、うん・・・よろしく、杏子ちゃん・・・
と緊張する。
ハァ
ハァ
彼女は「三日も我慢したんだろ？
じゃ、さっさとその精液
ぶちまけてくれよ」と言い、
グイッと俺の胸ぐらを引き寄せる。

彼女の唇が勢いよく重なる。
ちゅっ♥れろっ♥と荒々しい
ディープキス、杏子の唇は柔らかく、
りんごの甘い味が混ざった舌が
強引に絡みつくと・・・
おちんちんが
ズボンの中でガチガチに勃起。
「へっ、硬くなってるじゃん。変態♥」
と杏子がニヤリと笑う
レロ
レロ
ちゅ
ちゅ

杏子がズボンを下ろし、
「ガチガチに勃起してんじゃん！」と
笑いながらおちんちんを握る。
うっ…杏子ちゃん…！
彼女の指が先端をクチュクチュ弄り、
ヌルっとシゴくが、イキそうになると
ピタッと止め…
「焦らした方がいっぱい出るんだろ？♥」
と意地悪に笑う。

くちゅ♥
くちゅ♥

指先でカリ首をクチュクチュと弄る。
親指が先端を押さえ、裏筋を擦ると、
俺の腰がガクガク震える。
気持ちいいっ…！
イキそうになるとピタッと
手を止められる…
寸止めを繰り返し、
俺のおちんちんは限界まで膨らむ。
杏子、ちゃんもう…と懇願するが、
彼女は笑いながら、指で先端を軽く弾く。
ヌチャヌチャと音が響き、
透明な液が溢れる。
くちゅ♥

彼女は
「よし、そろそろ口でイかせてやるよ♥」
と言うと・・
ちゅぽっ♥
じゅる♥
杏子が「じゅぽっ♥」とおちんちんを
口に含む、熱くて湿った口内が
亀頭を包み、舌が裏筋をチロチロと這う。
杏子、ちゃん…うあああ…！

彼女の唇が締め付け、舌が円を描く
ように、レロレロと動く。
「れろちゅっ♥じゅるっ♥」と吸い付き、
ヌチャヌチャという音が響く。
ちゅぽっ♥
じゅる♥
杏子が「んふっ♥気持ち良いか？♥」と
上目遣いで見つめ、
頭をリズミカルに動かす。
杏子ちゃん、気持ちいいいい…！
亀頭を転がし、喉の奥で締め付け
強くおちんちんを吸う…！

杏子、ちゃん…もう出る…！と叫び、口内射精。

びゅるるっ！びゅびゅびゅびゅ！

ちゅぽっ♥

じゅる♥

白濁が杏子の舌に勢いよく叩きつけられ、彼女はそれを口で受け止める…

ほぉら♡こんなに出てるぜ♡
興奮しすぎだろ♡
気持ちよかったか…？♡
レロ♡
レロ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
じゃ、遠慮なく飲ませてもらうぜ♡
杏子はごくごく、と飲み干し、
唇を舐めた。

杏子は、服を脱ぎ始め、
引き締まった体に
小ぶりな胸がぷるんと揺れる。

もみ♥

もみ♥

ほら、男はおっぱい好きだろ？
これ揉んでおちんちん大きくしろよと
杏子が胸を突き出し、
俺の手を掴んで自分の胸に押し当てる。

指先が触れると、ムニュッと弾力のある
柔らかさが手の平を包む。
彼女の胸は適度に張りがあり、
押すとふわっと跳ね返る。
汗ばんだ肌がヌルっと滑り、
温かい感触が指に吸い付く。
もみ♥
もみ♥
両手で揉み始めるとおちんちんが
ムクムクと反応し始める。
よし…用意はできたみたいだな…♡

杏子がベッドに寝転び、汗で濡れた白い肌と、引き締まった太ももを俺は興奮し、覆い被さる。

ずちゅ♥

ずちゅ♥

ハア♥

ハア♥

おちんちんを秘部に押し当てると、熱くてヌルっとした感触が先端を包み、『うっ……!』と腰が震える。

ゆっくり挿入すると、
「んっ…！でけえな…！♥」と杏子が
声を上げ、膣内の媚肉がギュッと
おちんちんを締め付ける。

ずッちゅ♥

彼女の愛液がグチュグチュと溢れ、
ヒダが亀頭をコリコリと擦る。

ハア♥

ハア♥

あまりの気持ちよさに全身に
電撃のような快感が走る。

「ほら、動けよ！ガンガン来い！♥」と
杏子が煽る。

引き締まった腰をグイッと持ち上げると
腰を振り始め、ゆっくり引き抜いてから
どちゅん♥と深く突く。

彼女の膣内は熱く、
柔らかい肉壁がうねるように締め付け、
おちんちんをぐちゅぐちゅと刺激する。
パチュッ♥グチュッ♥と
肉がぶつかる音が響き、
汗が滴って肌を光らせる。
あっ♥
あぁっ♥
パン♥
パン♥
ブッ♥
ブッ♥

腰をさらに加速させる。パチュパチュ♥
グチュグチュ♥と音が激しくなり、
彼女の愛液が飛び散ってシーツを
濡らす。
んんっ♥ お前…！すげえじゃん…！
もっと！♥んぁぁっ♥
そこヤバいって…！
と杏子が体をくねらせ、
膣がギュウッと締まり、
おちんちんが締め付けられる。

ああっ♥一緒ににイこうぜ…！♥
お前もっ…！
腰をグラインドさせて応える。
彼女の媚肉が波のように蠢き、
ヒダがおちんちんをコリコリと
擦る快感に、俺の全身が震える。
杏子ちゃん、もう…出る…！

びゅうっ！びゅるるるっ！と白濁が
杏子の奥に勢いよく流れ込む。
熱い精液が膣内を満たし、

「んぁぁっ♥熱っ…！うぉぉ…！♥」と
杏子が体を仰け反らせ、
ビクビクと痙攣する。
どくっ！どくっ！とおちんちんが
脈打ち、快感が何度も繰り返す。

杏子ちゃん…はあ…！
気持ちよすぎたよ…！♥

ハァ♥

ハァ♥

ハァ…♥お前、すげえな…
めっちゃ気持ちよかったぜ♥

汗で濡れた彼女の胸が上下する

なぁ・・・もっと・・・しようぜ・・・♡
今日はずっと一緒に・・・♡
ハァ♥
ハァ♥
もちろんだよ、杏子ちゃん・・・！

いやー…ずっと長居しちゃって
悪かったな！
またここにきてもいいか…？
ハァ♥
ハァ♥
またいつでも気楽にきていいよ！
そう答えると機嫌良さそうに
杏子は帰って行った。

お疲れ様、今日も協力してくれてありがとう！
またきゅうべえが現れた。
じゃあまた三日日に女の子を連れてくるからよろしく頼むよ。
俺はまたその日が来るのを楽しみにするのだった。

あぁっ♥
あっ♥
パン♥
パン♥
ブッ♥
ブッ♥

あぁっ♥
あっ♥
パン♥
パン♥
ブッ♥
ブリュ♥